

備陽史探訪

第44号

発行

 備陽史探訪の会
 福山市多治米町5-19-8
 TEL(0849)53-6157

杉原盛重

ーその生涯と史跡ー

田口 義之

今秋、本会では恒例の一泊旅行として、「山陰杉原盛重紀行」を計画している。杉原盛重は、備後が生んだ戦国武将として、おそらく、最も傑出した人物の一人だが、意外にもその生涯、史跡等は知られていない。この点からも今回の企画は、本会の行事とし時宜を得たものと言えるが以下、旅行の担当者として、盛重の生涯と、史跡を簡単に紹介し、旅行への一ステップとしたい。

杉原盛重は、備後の名族杉原氏の一族である。生年は不詳ながら、その活動期間と没年から、永正・大永頃（一六〇初）の生まれと思われる。父は、福山市山手町にそびえる銀山城主杉原氏と伝え、自身も成年に及んで銀山城主となっている。

銀山城跡は、戦国期の遺構をよく残り、市内では第一級の山城遺跡である。

銀山城主時代の盛重は、神辺城主山名理興の部将として活躍しており、一書には理興の四番家老であったとするものもある。この頃の主な事跡で、後の飛躍の基盤となったのは天文十二年から十八年にかけての「神辺城合戦」である。この戦いで盛重は、理興旗下の勇将として抜群の活躍をし、敵方の毛利氏にその力を認めさせるキッカケとなった。

神辺城は、天文十八年に落城し、城主理興は出雲に奔ったが、この時期の盛重の動向は不明である。その後理興は、弘治元年、許されて神辺城主に復帰するが、翌々弘治三年春病死し、子が無かったので、跡目が問題になった。そして、その候補とされたのが盛重であった。この時、理興跡目の候補者としては、小早川隆景の挙す一番家老の杉原興勝がいたが、吉川元春の強い推挙で盛重が

理興の跡を嗣いで神辺城主となった。元春は、神辺合戦で直接盛重の鋭鋒を受けており、敵ながらアツパレの感をいだき盛重を神辺城主に押ししたのであった。このため、この後の盛重は吉川元春輩下として活動し、元春勢の先峰として伯耆尾高城に入城することになったのである。

山陰での盛重の活躍は目ざましいものがあつた。永祿元年の石見侵入に参陣したのを始め、毛利氏の出雲・尼子氏攻撃では常に先頭に立ち、尼子の驍将山中鹿介のライバルとして弓浜に、江美城に、毛利勢の行く所、盛重の旗印（角巴）があつた。

盛重が伯耆尾高城主となったのは永祿七年のことであつた。この頃西伯の重鎮尾高城主行松正盛が病死し、子息が幼少であつたので盛重を正盛の未亡人と娶わせ、子息が成人するまで後見させよう、というのがその口実である。しかし、この後、正盛の遺児に城を渡した形跡はなく、これはいわゆる「口実」に過ぎず、伯耆を毛利の領国として固めるべく盛重を先陣として送り込んだというのが真相であろう。

尾高城跡は、米子市の東郊、大山北西麓に残る丘城で、現在は公共施設が立ち、一部は発掘されて公園と

なっている。北を望むと日本海、ふり返れば雄大な大山の山波と、すこぶる景勝の地を占めている。城跡北麓に杉原氏の菩提所と伝える観音寺がある。寺後に杉原氏の供養塔が残っている。

盛重が没したのは、天正九年（一五八一）十二月二十五日のこと、尾高城東方の支城八橋城中に於てであつた。病名は不明、長年の疲れが出たのであろうか。天正九年末といえは、毛利、織田の対決が大詰めを迎えた頃である。毛利氏にとっては大きな損失であつた。

盛重の菩提所としては、福山市山手町銀山城下の**三宝寺**、神辺城下の**龍泉寺**、尾高城下の**観音寺**が知られているが、もう一ヶ所、尾高城から日野川をはさんで西方、米子市手間に寺号を盛重の戒名「大安宗康大居士」から取つたと思われる**大安寺**がある。この寺には盛重の墓石と伝わる立派な宝キョ印塔が残っている。三宝寺にも、観音寺にもない、盛重の墓石である。盛重はここに眠っているのであらうか。是非訪ねてみたいところである。

※猶、旅行当日は現在盛重についての著述をされている立石定夫氏を講師としてお招きする予定である。

一九八九年度一泊旅行

。期日 九月二十三日、二十四日
。テーマ 山陰杉原盛重紀行
。主な見学地 江見城跡、尾高城、観音寺、大安寺、広瀬町
富田月山城跡（宿泊は皆生温泉）
※詳細は追ってお知らせします。

新修尾道市史

(昭和五十二年発行の巻)に
みる資料の
取り扱いについて

堤 勝義

『新修尾道市史』全巻は、編著者青木茂氏が尾道の古代から現代までを通して書かれたもので、誰もが出来るものではない、大変な業績であることはいまでもないことです。

古代から現代までの長い時間のその、きわめて限定された時代のそのまた限定された分野という、重箱の隅をつつくような、なんだ、こんなことを、ことさらとりあげると、思われる方もいると思うようなことと、とりあげてみようと思う。

いつも『新修尾道市史』の宗教の浄土真宗の項目をみる時に、あーこ

こは間違っているなと思う箇所があり、『新修尾道市史』をみる度に気になっていたのであるが、そこでこの機会に資料の取り扱いについて述べてみたいと思う。

見出しにゴジックで備後と親鸞の弟子明光と書いてあり、以下引用すると、「概説のところでも書いておいたが、尾道に民衆仏教としての真宗が教線を開いたのが戦国期である。(中略)；親鸞の弟子明光が、沼隈郡山南村に光照寺を開いたのが、建保四年(一一一六)である。この時親鸞は四三才。常陸稲田、信濃、下野、下総を巡歴中であり、稲田では「教行信証」の執筆中であった。明光(めいこう)は親鸞門下。関東。六老僧の一人、鎌倉に最宝寺を建て、後、西国に下って備後に光照寺、宝田院を開き、いったん京洛に帰って再び備後に下ったという活動家であった。親鸞、その門下は、関西の地

にあまり教線を開かなかつたので、明光の備後地においての布教は、注目しなければならぬところであるが：(後略)：」(。点は筆者)とあり、明光を親鸞の弟子として、別の項でも同様に文を進められている。実はこれは間違いであり、明光は親鸞の弟子ではなく、本願寺三代覚如

の長子存覚の影響を受けた人である。ここでは、明光に関する資料をかける前に「本願寺系図」(略図)を書いてみたい。

①親鸞一如信(親鸞に親子の関係を義絶された善鸞の息子)―②覚如(親鸞の娘覚信の孫)―③善如(存覚の弟従覚の息子)となる。覚如は文永七年(一一七〇)―観応二年(一一三五)―存覚は正応三年(一一九〇)―応安六年(一一七三)の生没年である。

資料①光照寺開創起源(『沼隈郡誌』五四七頁)「(前略)：明光は具真大師の弟子にして関東六僧の一なり：(中略)：建久二年越後に至り、親鸞上人に謁し他力往生の教を聞くに及び、遂に之が弟子となる。親鸞一日明光に謂って曰く、我北越東関の間に在りて仏智不思議の本願を弘むるに足れり、関西未だ比法至らず、明光彼に至りて弘道あらば我本願ここに足りなんと：(後略)：」
資料②『存覚一期記』(七十二才までの記事は存覚が口述したものを息子の綱敵が筆記し、それ以後は綱敵が書き加えたという。元本は焼亡し現在のものは大永年間(一一二一―二八)に光教寺頭誓が要点を抄出したもの。)の暦応元年(一一三三)

三月の項に、明光のねがいにより、名を悟一とかえて、備後守護前で、法華宗徒と宗論して、これを屈服させたとあり、この地において、明光に『頭名鈔』を稿了し、与えたとある。

『頭名鈔』は名号の意義を頭らかにするということより書名がつけられ、まず三界の苦相を描き、この苦界をのがれ浄土に生まるるには名号以外にはあり得ないと、一切衆生が救われる名号の功德利益を讃嘆し、最後に、(一)浄土往來の快樂、(二)一切衆生は悉く仏性を具備すること、(三)他力の意義、(四)往生の生は無生の生であることなども明らかにしている。

資料④『親鸞聖人門侶交名牒』には親鸞：願明(了海)―願念(誓海)―了円(明光)とある。
資料⑤『一流相承系図』(嘉暦元年(一一三二)六月五日付)は「右親鸞聖人ハ真宗ノ先達、一流ノ名徳ナリ。：(中略)：信知シタテマツルトコロノ相系ハ、真仏、源海、了海、誓海、明光コレナリ：(後略)：」とあり、資料④(資料⑤に基づいて書かれたものか)を裏づけている。

①から⑤までの資料をみると、①の資料のみ親鸞の直弟子とあるだけであり、(青木先生はこれを参考に

して書かれたものと思われる。

②から⑤までの資料は①をフォローすることなく、関東の念仏者、真仏(親鸞の弟子)、源海につらなる法系であることを明らかにし、存覚の『一期記』や『浄典目録』により明光や明光の弟子、京都の仏光寺の源は、存覚に指導をおおいでいたことがわかる。

存覚の思想については、京都仏光寺の了源にあたえた『諸神本懐集』についてみるならば、親鸞が弥陀一仏をと見え、蓮如も神仏を軽んじてはいけないといっているように、一貫して阿弥陀一仏のみをもつばら専修するという基本につらぬかれていく。

『諸神本懐集』は浄土真宗における神祇に対する立場を明示するために著したもので、例えば、天照大神の本地は観音菩薩、素戔嗚尊は勢至菩薩、熊野神社阿弥陀仏の化現したものであるというように書いている。このような存覚の神仏観が仏光寺に備後の明光教団にも影響を与えているのではないかとも思われるが、存覚が覚如の長子で、ありあまる才能をもちながら後を継げなかったもの、このあたりにあるのではないかと思われる。

以上、新修尾道市史から、資料のとりあげ方について書いてみました。

史実と伝承の谷間

武島 種一

去る六月八日岡山県新見市の三尾寺へ参拝した。目的は行基の開基であることと、三体の仏像が国の重要文化財であること。所在は新見市といても、東端標高五五〇メートルの高地で市街地より約三〇キロメートルもあって、案内書を見ても複雑だと思いつら途中何回も尋ねながら行く。然し境内に入ると深山幽谷の言葉がピッタリの地で参道の老杉その大木の揃っているのに驚く。寺伝によると行基開山弘法大師の中興とされており、真言密教の霊場として繁栄したらしい。盛時には十数坊を数えたと書かれている。

然し応仁の乱の兵火で焼け本堂等は再建されて現在の本堂は岡山県の重要文化財に指定されている。

本尊千手観音菩薩座像は行基作脇侍の不動明王、昆沙門天は空海の作といわれている。そして空海がこの寺へきたのは大同二年(八〇七)とされているが、有名な川上郡成羽町

の吹屋銅山は大同二年に弘法大師により開坑されたという伝承のある由

そうした伝承と五月二十一日備陽史探訪の会で行なった比婆郡高野町における史蹟調査で後鳥羽院と遺物、黒木御所跡の存在を、

御製 藪山おろすあらしのはげしくて、もみじのにしき
きめ人もなし。

をどう受けるか、一概には言えないところである。わが神石郡にもこれに類したことがあり、続神石郡誌によると、元弘二年の乱で、新市町宮内の桜山軍に加わった後醍醐天皇方は神石郡にも数多くいた。その中で豊松村の内藤河内守実の臣に井上勝正という武将がいた。この戦いで赤坂、笠置の両城は落城し、天皇はのがれて上豊松村尾尻八幡宮に行在所を置かれた。この時勝正は終始忠誠をつくした。その忠誠を賞し給いて親しく宸翰を賜った。その御製に

「賤が家はいふせきものを
春雨の 大きく音さむき
庭の花の戸」とある。

勝正は広く幕府軍(北条)を欺き、その勢力を挫かんとして畏くも天皇崩御し給いし如く装い米見山頂上に五輪塔の山陵を模造したといわれて

いる。(現存)

井上勝正の子孫は代々豊松村に住み大正の頃同家より日月の印のある桐箱が発見されその中に一巻の宸翰があった。その書きものは奉書紙に墨書されていたが、六百有余年の星霜を経ていたので虫食い跡も夥しく大体判読できる内容は前記の通りであったといわれている。

御鳥羽院(八二代)後醍醐帝(九六代)である程度時代の差があり更に行基は奈良時代空海は平安時代の人でそれぞれの伝承は史実的に確証は困難である。然し以上の三例を述べたのは歴史を研究するには文献史実によるのが最も大切なことではあるが、伝承も又大切である。古事記、日本書記でも神話はロマンだし、伝承すべき文化である。それを非科学的だと否定したりせず尊重したいと思う。

終りに平成二年の備北における史蹟案内はロマンに富んだ所へ案内したいと思っている。

余白を利用して、備後の武将の花押を載せてみました。
今回は備北甲山城主の山内首藤氏です。出典は『山内首藤家文書』です。

も の 言葉いわぬもの

佐藤 秀子

大きい樹が好きで、庭に櫻を植えた。春の芽ぶきの時は朝がとても楽しみである。葉が開き、やがて緑色の風のそよぎ、青い空を背景の大きな水彩画。けれど隣の空地に家が建つことになり、落葉樹の彼は今、ハムレットのセリフをかみしめている。やさしい人が引越して来てくれれば了解をもらって秋の乱入者としての落葉を許してもらえるのだが。八年間で三倍近く大きくなった木を眺めながら、わたしは、どんな人が越してくるのか、やきもきしている。

樹、特に巨樹はそれを伐らないで生かせてくれた人間のやさしい心に負うところが多いと本で読んだことがあるが、何百年、何千年となると、もろどちらがやさしいのかわからない。そばに佇むだけで心は夢の中をふわふわ、その大ききき：自然の偉大さに今さらながら感嘆。

例会で行った天満宮の乳下り銀杏は、もう樹というより時空を超えた言葉いわぬ魂。千年の間、何を想っていたのだろうか。宮城県にある聖武

天皇の乳母が植えたという銀杏も、やはり乳下りで樹令千年を超えている。源実朝を暗殺した公暁が隠れていた鶴岡八幡宮の銀杏も同様の樹令であり、惨劇の年一二一九年(承久一年)彼(雄株であるから)は二百才、凛として歴史の目撃者となっていたに違いない。関東武士の尊信を集めた八幡宮で、国宝の肖像画の通りならば端正で気品のある頼朝(尾道の美術館で見たその画は、教科書からは想像もできないほど大きくて威厳があり、ため息がでて立ち去りがたかった。)や剛勇と伝えられる頼家、北条氏一族、鎌倉幕府の要人、その他、時代の歴史上の人物を数えきれないほど見てきたに違いない。遵よ。ああ、なぜ語らないのか。そのつきぬ胸の内をわたしは聞いてみたい。

以前、佐賀田城からの遠望で、深緑色に繁った大木を見つけ、何の木だろうと楽しみにしていたが、去年の冬、会うことができた。その正体は、くぬぎ。葉は落ちてなく樹肌と周りに散らばったどんぐりとかから、わたしが判断したのでちよつとあやしい(?)かもしれない。雑木が伐られずにこれまで生きながらえたのは不思議だが、他の山からでもすぐ目につくところから神辺城の位置づ

けとして大切な役を務めてきたのかもしれない。

大宮八幡神社にあった山もみじの木は新緑と斑紋のできた樹皮が美しく、又うっとりとして見とれてしまいう段に腰かけて一日みつめていたかった。ここのお堂には古い絵馬も多く江戸時代の版画のくすんだ色彩に似た絵は人物の描き方にも特徴があつて乱歩の「押し絵と旅する男」の小説のように、じつとみていると絵馬の人物に手招かれ額の中に入ってしまう。最後に登った葎山城の古井戸は、すっかり浅い水たまりになり、おたまたまくしの楽園だった。天敵もいらないらしく水面、水中をうずめつくしていたが、城の佳人なき今、彼らの繁栄しているのがせめてもの慰め、いつまでも続くようにと。山城への道は遊歩道となって整備されていたが、昔のままの道もいいな。細い険しい道を昔の人達の軽やかな歩みを思ううかべながら枝をかきわけ登ってみたかった(…と、あの時の辛さを忘れたわたしは一人調子のいいことを言っているのである)

功徳寺にあった多賀山通統の墓、苔むした木を背に從えた彼は多難な時代を生き終え、今安堵の眠りにつ



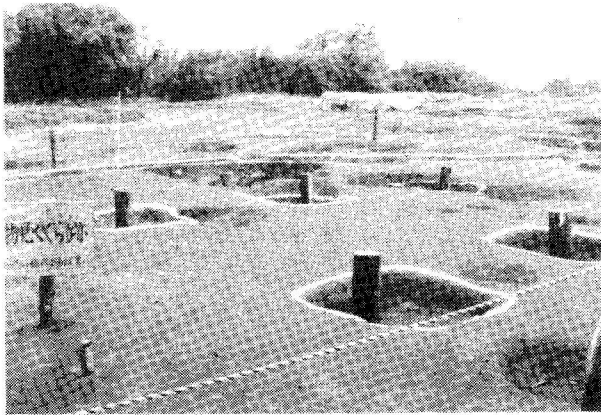
山内泰通花押

吉野ケ里遺跡見学

T 生

今テレビ、新聞で賑っている、佐賀県神埼郡神埼町と三田川町の境界で発掘されている、吉野ケ里遺跡を見学することが出来た。

四月二十一日より二十三日までの長崎、西九州の旅行へ参加したので、この機会には是非行ってみようと思い、二十三日に旅行の日程を終り博多の駅まで帰って来たので、私達二人は



一行と別れ一日旅行を延ばして、駅前に宿を取り翌日行くことにする。二十四日は朝より雨降りであった。朝八時すぎに、鹿児島本線で鳥栖まで行き、長崎、大村線に乗り替えて三田川駅で降り、駅前の案内板の標識に従って歩いて二十分位で現地に到着する。道路端の小高い丘の上に立って見

る。これが今古代史の謎「邪馬台国」に迫る鍵として話題の、弥生時代集落跡である。

周囲に二重の濠を巡らし、V字形の溝は巾は七米位、深さは三米位もあり、それが集落をぐるりと囲み、内側にも同じように濠を掘り囲んでいる。内濠の内側に真四角に六ヶの穴があり、説明によれば「物見やぐら」の跡ではないかとの事である。

「魏志倭人伝」に卑弥呼の居所には「宮室、楼観、城柵を蔽かに設け、常に人あり兵を持して守衛す」とあるから、この物見やぐらが「楼観に城柵が土塁ではないかと云う。

なお同書に「倭国乱れ、相攻伐すること暦年」と記載されている。

吉野ケ里のこの「くに」も戦乱のため、物見やぐらに登り見張りをし、この聚落の内外で戦ったのであろう

か、それを物語るように近くにある墳丘墓のかめ棺の中より、首のない人骨や矢を受けたもの等が発掘されている。

まさに「魏志倭人伝」に記載された通りの「くに」が出現したのである。

墳丘墓の中心部で一番大きなかめ棺からはこのくにの王クラスの人物が葬られていると思われる。有柄銅剣、ガラス製の管玉等が出土している。又巴型銅器の管型片、それモデルにして製造されたレプリカの巴型銅器、出土した人骨に付着していた頭髪、鏡、勾玉、等、その他石包丁、斧、壺等々の生活用具の数々が近くの建物の展示室に飾ってある。

我々を二千年前の世界へ連れてくれる。

中国の書物「魏志倭人伝」記されているのみで、実体は不明で幻といわれている「邪馬台国」、そして卑弥呼は誰なのか、こうした謎が解明出来るのではないだろうか、少なくとも吉野ケ里遺跡の発掘に依り一条の明かりがさして来たように思う。今後に大いに期待したい。

悪天候にもかかわらず見学する機会に恵まれて、満足しながら帰途についてた。

新入会員 招介

CONFIDENTIAL
備陽史探訪の会

個人情報が含まれるため掲載できません。

山城志原稿募集

- 一、内容は歴史に関するものでしたら何でもかまいません。
- 二、四百字詰原稿用紙で一〇枚前後
- 三、写真、図版は二枚以内
- 四、締切は八月末日（厳守）
- 五、投稿先 事務局

神辺東部史跡を たずねて

田中 伸治

六月二十五日、友達とかねてから計画していた史跡めぐりに行った。この日は梅雨どきにもかかわらず見事に晴れていた。九時半ごろから自転車で出かけ、十時には最初の目的地、要害山城跡の麓の神社についた。見るからにあれはてはいたが立派であった。そこから本殿の横にある小さな道を通り山頂へと向った。十分ほどで山頂へ着いたが、しかし、あるのは草に囲まれた広場だった。なんだこれはと思ったが、よく見てみると円形の土塁がぐるりと山頂をかこんでいるではないか。さっそくまわりを一周してみようと草をかき分けて進んだが思ったより草が深く一周どころか半周すらむずかしく、しかたなく山をおりた。

この日は特にむし暑く山を登ったせいもあり汗がダラダラと出てきた。やはりもつとすずしい時にくればよかったなあ〜とちよっぴりこうかいした。そして次の目的地である迫山古墳へと向った。ここは、山の中に古墳があるとはいえ道が良く、とて

も歩きやすかった。そして三号墳、二号墳と、近い順に見て行ったが、一号墳を見てびっくり、これほどまで大きいとは思わなかった。外見は小さなこんもりとした山があるだけでたいしたことはないように見えたが石室内部の巨大さといったらなかつた。手をのぼしてジャンプしてみてもとてもとどく高さではない。本には高さ三m長さ十六mと書いてあり、随分大きい人だなぐらいしか思っていなかったが百聞は一見にしかずである。さて、そして迫山をあとにして最後の目的地、国分寺裏山古墳群へと向った。暑さはますます増していき友達もぼくもへとへとになりながら山道をのぼって行った。やがて古墳につき、さっそく石室に入ってみたが中はうす暗く大きなコウロギが天井に五、六びきはりついでとても気持ちわるい。さっさと中から出て他に古墳はないかと山をさぐり探しまわったがめぼしい古墳はなくそのうえへびと出くわしたりでまったくきんざんざんであった。しかしまあ、たまにはこんな事もあるさ、と気をとりにおして帰ることにした。帰っているときとふと神辺城が目に入り「うーん」むかしはあそこどこんなものがあったのだろう。もしかして

ここで合戦をしたのかもしれない。兵たちは神辺城めざして突きますのでいこうとしたのだろうか?などと色々考えているうちに家が近くなってきた。いろいろあったけどやっぱりおもしろかったなーと友達と話して本日の史跡めぐりを終えたのだつた。(城東中三年生)

上下町の探訪に 不参加の記

小島 斐斐春

三月の下旬から体調を崩して居たので、四月の上下町探訪は、薬師如来座像など多くに未練を残し乍ら簡めざるを得なかった。ところが会報四三号で上下町にお住いの熊谷さんと云う方の、住んで居る人でなければ書けない内容を持つ素晴らしい文が掲載されて居て、どんな方かは知らぬまゝ、お会い出来たらいいな、と思つて居りました。

四月の終りに体調も回復したし、会報に佐藤さんの記事もあって、かねて思つて居た府中市の七ツ池を見学に行き、帰りに弁当を喰べ様と、服部池に行った所、たまたま田口副会長にお会いたのが幸運の始まりで、もう駄目と諦めて居た五月の古墳巡りに参加出来、その会で思い掛せず熊谷さんから声をかけて頂き、お話しが出来て本当に仕合せでした。

それで熊谷さんから触発された事の一ツ、明治の末期を彩つた、上下町出身のヒロイン岡田美知子さんに触れてみたいと思ひます。岡田美知子さんをヒロイン、などと云うのは余りにも弥次馬根性だと人は思うかも知れない、熊谷さんの文にも、娘の恋愛を暴露された父親の、怒りと無念さを如実に書いて居られる。あの小説での扱われ方にしても必ずしも好意的ではなく、作者はその小説によつて一躍、自然主義文学者としての地位を不動のものにした、と云われて居るが(自然主義文学と云つても、大層な事ではなく、事実をありのまゝに書くこと云う事です)、その故にこそ、知らぬまにモデルにされ、秘めねばならぬ事を暴露され、しかもその文が世間の評判となつては、モデルも家族も耐らない、恐らく当時は上下町の人達も、町の恥として後指を差したのではないでしようか。何しろ明治四十年と云えば、日本は二年程前にロシアとの戦いに勝利を収め、世論はあげて硬派の国へと大転換の最中、男女の間も厳しい節度を求められて居る時なのだか

ら。小さな田舎町ではまさに災難でもあったでしょう。……現在においても上下町としては、この件を意識的に避けて居る様に、私には思える。それとも美知子さんに対する町の思い遣りなのでしょうか。

しかし田山花袋氏書くところの小説「蒲団」での美知子さん（小説中では芳子）は当時では珍しく、神戸の女学校出の教養と、作家を志望して東京に出た積極性と、師の竹中（小説中で）がコロリと参る程の美貌とを合せ持ち、師弟の分別も弁えた女性として画かれる、若い神学生の田中との恋愛も、成るべくして成る、と云う順を踏んでの進行で邪魔が入りさえしなければ二人の恋は成就したかに思える、結婚は親任せと云う当時ではや、問題あり、と云うも、新しい教育を受けた者達では親任せこそ問題ありと思うだろう。端的に云えば若い二人の愛に何ら不純なものはないと私は考える。むしろ当時の厳しい世相の中で新しい愛の方法を積極的に模索した彼女に賞讃の声を贈らねばならない。私しがヒロイン、と云うのはその事を思うからである。この二人の愛は、やがて師の竹中の嫉妬から来る中傷によって（本来なら暖かく見守るべきを）破

られる時が来た。まさに悲恋の終末を迎える。……立場を変えて若い二人を中心に小説を書けば一大恋愛小説になるだろうと思う。あのホトトギスの浪子と武男の様に、これがヒロインでなくて何であろうか。

実は私は二十年程前に福山市に転勤して来て間もない頃、案内書によって「蒲団」のモデル岡田美知子さんの実家が残って居ると知って上下の町を尋ねた事がある。駅前広場に車を置いて閑散とした、古い町並をゆっくりと歩き、薬局の隣りと云うその家の前にしばし佇んで、江戸時代はもとより、すでに歴史の彼方へと霞みつつある、明治の時代を偲んだのでした。……しかし正直に云うとその頃の小説を読んだ事はなく、唯案内書に惹かれた丈だったので。どうも誠にけしからぬ弥次馬ですが……私は本を読むのは好きな方で恋愛小説にしても横光利一氏の旅愁など昭和十七年頃、文春に連載の頃から青臭い若僧のくせに毎号待遠しく、矢代と千鶴子の恋の行方を心配し、又スイスのチロル山中での情影など今も心に残ります。戦後では、チボー家の人々、のアントワヌ、ジャック兄弟のそれぞれ生き方の中に自分の未来を重ね合

せたものでした。その外の諸々も。……モデルを知り乍らその本を読まなかったのは、その題名が原因です。題名はやはり、谷間の百合、とか、月と六ペンス、とかでなきゃ、……大体、田山花袋と云うペンネームも、フトン、と関連して、ハナブクロ、と読み度い位だったのです。……まあ私しの感性もその程度と思われ一向差支えないのですが。……さて熊谷さんに触発されて今回は図書館に行きました。

それが以上の感想なのであります。……実は今、この小説を読み乍ら何んとも云えないもの凄さを感じるのです。……この小説には先にも記した様に若い二人の外に、師の竹中、と云う（花袋本人と思える）中年の作家が登場する（まあ彼が主役なのだ）が、彼は弟子入りして来た若い女に惹かれ傍目にも分る程の恋心を持つが、やがて彼女に恋人が出来ると夜も寝られぬ程の嫉妬をする。そして二人の仲をかき廻し、彼女がせっぱつまって師を頼るのを良い事にして遂に二人を引放し、彼女を探す男をあしらって心で快哉を叫ぶ、傷心の彼女が田舎に帰ってしまったと、その使っていた蒲団に顔を埋めて涙を流す。帰郷した彼女から木で鼻を操っ

た挨拶状を受取る、なんとまあ！ 締まらない話のだが、私も又正直に云うと、この中年男の気持丈は分る。あのミニスカートの突然の登場で、本能と理性の間を揺れに揺れた中年の時代が私にもあったのだから……しかしその内容を事細かにあからさまに世に出す神経は私にはない。それをこの男は、大胆と云うか、恥知らずと云うか、モデルの事だつて直ちに知れると云うのに。察するに花袋はこの小説に彼の作家としての全人生を賭けたのだと思う。当時の世相から云えば背水の陣だったとも云える。花袋はこの作に、自分を下敷にして、中年男のいやらしさを、世間向けの理性の陰に潜む本能のいやらしさを、見事なまでに、折り出して見せたのだ。大体「蒲団」と云う題名にしてからがそうだ、ウサン臭い、……作家とは何んぞ恐ろしい存在であろう。……故に世論は沸とうしたのだ。

轟々たる賛否両論の沸き起る中で花袋は遂に勝利を収めたのであった。ハナブクロなんて云って御免なさい、と云わねばならぬ、……そしてその陰で傷ついた人達が淋しく身を縮めて退場して居ったのであった。

一九八九年五月

ふれあい廿回

備陽史探訪の会 (神谷和孝会長)



古墳めぐりの世話をする会員ら (J R福山駅前)

会の名前通り遺跡、史跡を訪ね歩くことが大好きな人の集まり。昭和五十五年、サイ

先人のロマンを追う

の古墳を歩いた。三回目に参加者町にかけて

クリンクで史跡めぐりをし、遺跡、史跡を巡る例会を
ていた福山市内の歴史好き 年七十八回、講師を招いて
の若者ら十一人が、歴史研 の講演会を三回開く。例会
究サークル結成を申し合わ は役員の一人在講師になっ
せ、翌年四月、近大付属福 て、スケジュールを組み、
山高校の神谷教諭を会長に 手作りテキストを作成す
迎え、発足させた。当時の る。秋の例会は二泊三日で
メンバーは、二人しか残っ 遠くへ出かける。和気あい
ていないが、現在は八十五 あいの楽しい見学旅行とい
歳のお年寄りから中学生ま う。
で百四十人と大きく成長し 現在では城郭研究、古墳研
た。 究、歴史民俗研究の三部会
会の運営や例会の世話を 会を設け、各部ごとに勉強会
する役員が二十人いるが、 や踏査活動を続けている。
会長を除くと学者、教員ら 会全体で取り組む大きな行
歴史学の専門家は一人もい 事は、毎年「ちもの日」の親
ない。会社員、市議員、自 子との古墳めぐり。七回
営業者、主婦らが立派に役 目の今年も百人が参加し、
員として活動している。 福山市加茂町から同市駅家

が五十人と減り、中止論も 出たが「継続してこそ意義 がある」との信念でピンチ を切り抜けた。
田口義之事務局長(三三三)は 「うちの会は、どこからも 補助も受けていない純粋の 民間団体です。会員の団結 と役員の間が支え。これ までよく続いたと思いま す。来年は発足十年目。何 かやりたいと考えていま す」といっている。
入会申し込みは、年費 二千五百円を添えて千四福 山市多治米町五の一九の 八、田口義之さん方(電) 八四九一五三六一一七)へ。

読売新聞 1989年5月10日朝刊 広島読売広域面掲催

“備探の会は新聞でおなじみ！
今まで随分紙上に出現したはずですが、切り抜きされている方
いませんか！！
もしおられたら来年の10周年記念事業の参考にしますのでお知らせ
下さい。”

島倉千代子歌手生活 三十五周年記念 特別公演に出かけて

後藤 匡史

五月十八日、島倉千代子歌手生活
三十五周年記念特別公演が福山市市
民会館であった。ヒット曲、人生い
ろいろ六十五万枚突破記念でもある
去年のレコード大賞最優秀歌唱賞に
輝やいた人生いろいろを、オーブニ
ングに島田に結った頭に紫の振り袖
を着て口上。
そして往年のヒット曲、十六才でデ
ビュー、この世の花から他国の雨、
東京人よサヨウナラ、えりも岬、り
んどどう峠、逢いたいなああの人に等
……。
それから小柳ルミ子デザインの黒の
ハットにドレス、そして圧巻は濃い
緑色のドレスが横が割れていて振り
付けに足を横に伸ばすと、腿の線が
くつきり、会場一しゅんオーとため
息吐息、その後出て来た時は、いつ
もの様に着物姿、しっとり落ちてい
いて、やっぱり一番安心して見てい
られる。そして、先程は見せてはい
けないものをお見せしてしまつて、

山内豊成花押



帰ってうなされない様にと、はにか
みながら、又、そういうしぐさが男
心をかきたてる。
今テレビで山田邦子やコロケが歌
う時のしぐさを真似してくれるお陰
で小さい子供までがいろいろお叔さ
んといってくる。ホント彼女の
人生にはいろいろなことが、突然声
が出なくなったり、阪神タイガース
の花形選手藤本勝己と結婚そして離
婚、又、借金の返済、しかし歌ある
かぎり唄い続ける彼女に声援を送る
う。
だって何んの因果か彼女の誕生日、
三月三十日は私の子供と一緒だモ一
ン！！

「親と子の古墳めぐり」に参加して

Y・INOHARA

「親と子の……」と言うからには、小・中学生とその親御さんという組み合わせだからかなと思いきや、ご年配の方や幼い子供さんも参加しておられるので、場違いではないかとの不安も消えて、気分はすっかりピクニック。

点呼をすませて、「座ってください」の声でしゃがんで待っていました。このしゃがんだままじっとしているというのが意外にたえます。近くのご婦人も座っているよりも立っているほうが楽しやねえとつぶやかれました。(うーむ・私もじゃっかん若さが足らないかしらん。)バスに乗るのも久しぶり。

現地到着からしばらく歩くと、やけに新しげなほこらとちよつとした盛土。古墳の文化的・歴史的価値にうとい私のこと、「こんなものか」とたいした感慨もありません。ところが、ぐるっと回ると石櫛がありました。古墳をこの目で実際に見るのは初めてなので、なんだかドキドキ

します。石櫛はめずらしいタイプのもの、でも私には石で囲った穴、造りがどうというよりそんな昔によくまあこんなお墓を作ったものだと思心するのみ。

つぎは、正福寺裏山古墳。山道を歩いてパッとひらけたら、小高いところに先に着いた人がそれこそ黒山の人ばかりです。北側の急な傾斜がいかに人為的とおっしゃるけれど(おや、この説明の人は地下足袋だ)実物を見るよりも資料の測量図を見るほうが納得できます。(ちよつぴり疲れたな)

それから、民家の裏手に土井古墳。大きな石を立てて使っているの時代は新しいほうだという事です。土井古墳を見たら食事です。池の向こうに見えるのは山城跡です。(掛迫城といったかな……ちよつと記憶があやふやです)

おべんとうは三角おにぎり。お茶はウーロン茶。おやつもあるのだ。さて、食事が済んだら出発です。あと一つです。(もう残り一つ? あっけないような、ちよつといいくらいに疲れたような……)

最後の掛迫古墳では、ぐるりと穴を取り囲んで説明を聞きました。メモも取らずに聞き流してしまつたの

で、覚えているのは「さんかくぶちしんじゅうきょう」くらい。(漢字で意味のある言葉というよりも、一連の音として記憶にのこっているの「三角縁神獣鏡」と書くこととニュアンスがしっくりこない。)

公民館でジュースをもらつて一息ついたらこともあろうにスライド上映中に居眠りをしてしまいました。(せっかくなのスライドだったのに残念!)

そんなこんなで楽しい一日がすっかりピクニック気分で終わりましたが、古墳のことを色々聞きました。記憶にとどまつたのは「さんかくぶちしんじゅうきょう」という音の連なりくらいのものでした。

その何日か後に新聞で「三角縁神獣鏡」という言葉を見、また「藤ノ木古墳と……」という講演のポスターに目がとまつたので、どうも近ごろは古墳づいてるのかしらんと思つたり、これはやはり古墳めぐりに参加した影響かなと思つたりしています。

▲せっかかく目にしたことだからと、その「藤ノ木古墳と……」の講演を聞きに行つたところが、古墳めぐりの時にキバツな配色のくつをはいていらつしゃつたお兄さんが、来てお

られるではありませんか! 街を行く人、あの人もこの人も見ず知らずの人、「こんにちは」なんてセリフは住まいを「〇〇メートルも離れればめつたに使わない。そんな時代に「こんにちは」が言える相手が一人でも増えたことを嬉しく思っています。▽

福山市西深津町

山内隆通花押



古墳研究部会

野外調査日誌

- 1 -

平成元年三月十九日(日) 天候(晴)

暖春

調査地…安光古墳群

所在地…深安郡神辺町字安光

調査種別…分布調査

概要…四年前に一部を調査していたものの完結を見ないまま中断していたもので、再度略測図を作成し、分布状態を地図の上にポイントとして落とし、現状を記録し、完結を目的として実施する。

四年ぶりに訪れてみると古墳群周辺の丘陵の木々の枝が落されており晴れやかで視界良好。

今日は、古墳の基数と位置の確認にとどめて、略測、地図へのポイントは次回としてまず、古墳の周りの雑木を切り払う。

調査結果…一・二号墳(仮称)は保存状態良好なれど他は石室の一部しか残っていないかったり、側壁が内側にかなり傾いており、さらに六号墳は側壁の一部しか残存していない状態なので現状の記録保存が急務と考える。

調査員…山口のみ

平成元年三月二十六日(日)

天候(晴時々曇 風冷たし)

調査地…安光古墳群

所在地…前述

調査種別…分布調査

調査概要…一・二号墳は前回略測済みながら再度確認して三号墳より石室の略測、写真撮影、1/2500の地図の上に位置を落してゆく作業を進める。田中君がメジャー役、網本氏が石の積み方、現状、寸法等を口述し

山口が調査カードに記入する。午前中に六基とも終了する。

調査結果…一〜五号墳まで同一斜面上にあり、直径約二〇mの範囲の中におさまる。開口部は南〜南々東で斜面が半円形になっている為わずかな違いをみせるがほぼ南向きで安光

の小部落をのぞむ向きに開口している。六号墳は前述の範囲よりはずれて北方に位置する。他に古墳と思われるものはなく以上六基より構成されていると思われる。以下の古墳の名称は仮称である。

一号墳：盟主的な存在
石合対称を意識した片袖式

二号墳：小振りの竪穴式石室か箱式の横穴式石室、残存良好

石棺の系統か？ 残存良好

三号墳：二号墳の上方で東方にあり

玄室の最奥部のみ残存。

四号墳：三号墳よりわずかに東方で

上方にある。玄室の最奥部のみ残存するも天井石はない。側壁の名残りらしき石

が前方にあり。

五号墳：二号墳の上方にあり天井石

一部なく、西側壁が内側へ

崩れかかる。内部に土砂多量あり。

六号墳：箱式石棺様、二号墳と同形式か？ 側壁の一部のみ残

存、開口部不明。

地元の話では古墳群の東側の山の頂上付近にて人の歯が出土した

という。後日踏査の要あり。

調査員…網本、田中、山口

※今回を含めての分布調査の成果については「山城志」に掲載する予定です。

(古墳研究部会 山口哲晶)

古寺巡礼のご案内

歴史研では今年から市内を中心とした古寺めぐりを行っています。

主なねらいとしては、

一、精神的な安らぎを得る。

二、お寺を中心としたその地域の歴史を学ぶ。

三、仏像や建物などの文化財について学ぶ。

の三点です。

当会の例会でも見学地の中に古寺が含まれる事が多く、もつとこのお寺の清浄な空間の中においてゆっくりと時間を過したい、とそんな気分を味わった方もおられるのではと思いが、反面的には豊かな現代社会です

が、反面精神的な面の心の安らぎはどうでしょうか。古寺巡礼は日常の機械文明から離れ、古代より数多くの人々が守り、祈ってきた文化にふれる「人間性回復」と私は考えています。

三月の賢忠寺、五月の光円寺に続いて七月十六日は午後三時より坪生町の西楽寺を訪ねます。ご住職の内藤氏は、「つばう郷土史研究会」の方でもあり貴重なお話が期待できると思えます。

当日同行をご希望の方は種本迄ご連絡下さい。

(TEL) 54-2047 夜のみ)

一 歴史研 種本 実一

246

リヒンクふくやま 二三四号

一九八九年六月三日付

輝いて ますね？ ★みなさん!

備陽史探訪の会



毎年多数の参加者でにぎわう古墳めぐりの開催者側は大忙し

歴史を研究するサークルとつぴり緊張しながら取材に出
いっただから、きつと年配の かげると、意外や意外、副会
方が多いんだってな。ちょ 長兼事務局局長の田口義之さん

は、また30代というところもおおいは、ほんの10人くらい。昭けですから、開催者側は大変若い方でした。一体「備陽史 和55年。今から9年前のことです。見学地の下見に最低3探訪の会」といかなるサークルなのか。がぜん興味がいいてきました。さき神谷さんを会長にしたもじは、もちろん、見学

田口さんは大学を卒業してし「日文コ文を経験しながら、。でも、それだけに、例会福山に帰ってると、かたつ会の名前通り、史跡を探訪す 参加者の評判は上々。毎回歴史好きを2、3人集めました。のイベントをなしてきました楽しい例会になっている。そして、それと同時にとか、「打ち上げの時のビールへ押しかけて、備陽史探訪の 会員の数も着々と増加。4年 の味が最高でネ！」。田口さん

歴史好き大集合！ イベント盛りだくさん

メモ

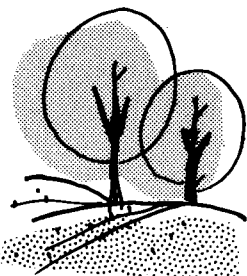
神谷和孝会長を軸にし
た約140人の大所帯。下は
中3の男子から上は80代
まで、年齢層も様々。ま
た女性が全体の8割を占
めるサークルでもある。
担当を決めて例会や
講演会を開くなどかなり
活発に活動中。常時会員
も募集している。会費は
年2500円。連絡先は
0849 (53) 615
7田口さん

備後の備、山陽の備、歴史の史。3つの文字をとって
名付けられた備陽史探訪の会
はなんと140人と、歴史の団体
としてはかなり大きなものに
なりました。研究部会、歴史民俗研究部会
の3つの部会を設けて、さら
この会の魅力といえは、何に詳しく、歴史を研究してい
といつても例会や講演会など
盛りだくさんのイベントにあ
ります。特に例会は常時たく
さんの人が参加して盛り上が
っています。ホラ、リヒンク
の4月29日号で「親子の古墳
めぐりを紹介したでしょ。き
たから、いつか山城跡で
これも、同会の看板イベント
の一つ。今年も約100人の親
でにぎわったそうです。の目
あちこちへ出かけて行くわ

今後の行事予定

- 八月六日 懇親会
- 九月二十三、二十四日 泊旅行「山陰杉原盛重紀行」
- 十月例会 (日取未定) 本島紀行
- 十一月五日 古墳部会例会「古備の古墳めぐり」(造山古墳、王墓山、ギリギリ山等を見学)
- 十一月 歴史研例会(未定)
- 十二月三日 城郭部会例会
- (甲案) 服部の山城めぐり
- (乙案) 有地氏の城跡めぐり(芦田町)

☆今年度も後半期に入ります。そろそろ来年度の行事計画を考えなければなりません。例会、講演会等でテーマ、目的地など要望がありましたら遠慮なく事務局までお申し越し下さい。
ハガキでけっこうです。



城郭研究部会活動日誌

一九八九年度上半期

城郭研究部会行事予定

第二〇回中世を読む会

事務局日誌

参加九名。

一月二〇日 第二十四回中世を読む会 参加六名

二月一七日 第二十五回中世を読む会 参加六名

三月一七日 第二十六回中世を読む会 参加三名

三月二十六日 府中市八尾城跡の踏査、後藤、佐藤(錦)

四月二十一日 第二十七回中世を読む会 参加六名

四月二十三日 講演会「草戸千軒町のあった場所」 広大

教授青野春水先生 参加三十五名 於中央公民館

五月二十六日 第二十八回中世を読む会 参加六名

六月二十三日 第二十九回中世を読む会 参加十一名

山内直通花押



。期日 七月二十一日(金)午後七時

。場所 中央公民館2F和室

。テーマ 「山内首藤家文書」を読む

。む パートⅢ

十二月例会

。期日 十二月三日(日)

。服部の山城を探るか、有地氏の城跡(芦田町)を訪ねるか決めかねています。要望があれば事務局までお申し越し下さい。

。猶、十月に入ると予備調査を行います。参加希望の方は事務局まで。

。期日 十二月三日(日)

。服部の山城を探るか、有地氏の城跡(芦田町)を訪ねるか決めかねています。要望があれば事務局までお申し越し下さい。

。猶、十月に入ると予備調査を行います。参加希望の方は事務局まで。

。期日 十二月三日(日)

。服部の山城を探るか、有地氏の城跡(芦田町)を訪ねるか決めかねています。要望があれば事務局までお申し越し下さい。

。猶、十月に入ると予備調査を行います。参加希望の方は事務局まで。

。期日 十二月三日(日)

。服部の山城を探るか、有地氏の城跡(芦田町)を訪ねるか決めかねています。要望があれば事務局までお申し越し下さい。

。猶、十月に入ると予備調査を行います。参加希望の方は事務局まで。

。期日 十二月三日(日)

。服部の山城を探るか、有地氏の城跡(芦田町)を訪ねるか決めかねています。要望があれば事務局までお申し越し下さい。

。猶、十月に入ると予備調査を行います。参加希望の方は事務局まで。

。期日 十二月三日(日)

。服部の山城を探るか、有地氏の城跡(芦田町)を訪ねるか決めかねています。要望があれば事務局までお申し越し下さい。

。猶、十月に入ると予備調査を行います。参加希望の方は事務局まで。

。期日 十二月三日(日)

。服部の山城を探るか、有地氏の城跡(芦田町)を訪ねるか決めかねています。要望があれば事務局までお申し越し下さい。

。猶、十月に入ると予備調査を行います。参加希望の方は事務局まで。

一月二十二日 於神谷宅、役員会。終了後新年会、参加十一名。

二月十二日 於神谷宅、役員会。参加九名。

二月十九日 於中央公民館、一九八九年度総会。記念講演「博物館をつくる」丸山茂樹先生。参加三十名。総会行事無事終了。

三月十九日 三月例会。「御調八幡宮と久井町の史跡めぐり」担当末森清司・後藤匡史 参加四十二名。

四月七日 於ホーセン 役員会。参加十名。

四月九日 第七回親子古墳めぐりコース下見 参加五名。

四月十六日 四月例会「上下町の史跡めぐり」講師赤迫敬三。参加四十九名。

五月一日 於中央公民館 役員会。参加十名。

五月五日 第七回親と子の古墳めぐり 加茂町、駅家町方面。参加一・二名。

五月二十一日 五月例会「高野町の史跡めぐり」担当武島種一。参加五十五名。

六月八日 於中央公民館、役員会。

一月二十二日 於神谷宅、役員会。終了後新年会、参加十一名。

二月十二日 於神谷宅、役員会。参加九名。

二月十九日 於中央公民館、一九八九年度総会。記念講演「博物館をつくる」丸山茂樹先生。参加三十名。総会行事無事終了。

三月十九日 三月例会。「御調八幡宮と久井町の史跡めぐり」担当末森清司・後藤匡史 参加四十二名。

四月七日 於ホーセン 役員会。参加十名。

四月九日 第七回親子古墳めぐりコース下見 参加五名。

四月十六日 四月例会「上下町の史跡めぐり」講師赤迫敬三。参加四十九名。

五月一日 於中央公民館 役員会。参加十名。

五月五日 第七回親と子の古墳めぐり 加茂町、駅家町方面。参加一・二名。

五月二十一日 五月例会「高野町の史跡めぐり」担当武島種一。参加五十五名。

六月八日 於中央公民館、役員会。

○八月六日(日)の懇親会は参加自由です。日頃感じた事など、この機会に。言いたいほうだいにしていと思ひます。会費は男性二五〇〇円、女性二〇〇〇円です。

希望者は事務局まで。

☆会報原稿は常に募集中です。簡単な論考、例会等の感想、短歌、史跡のレポート等原稿用紙四枚以内でお寄せ下さい。

☆会に対する御意見、御要望は会のエネルギーとなるものでは遠慮なくお寄せ下さい。

備陽史探訪の会事務局

〒720 福山市多治米町五一九一八

田口義之方

TEL (〇八四九) 五三二六一五七